

医療従事者部門
(国内)
Health Provider



たか はし あき ひこ
高橋 昭彦 Akihiko Takahashi
ひばりクリニック 院長

Director, Organization Hibari Clinic

推薦者 永井 良三 自治医科大学 学長

1985年に自治医科大学医学部を卒業した後、出身地の滋賀県で10年間、地域医療に従事。その後、栃木県へ移り在宅医療、在宅ケアのネットワーク強化に取り組む。2002年、ひばりクリニックを開業。2007年、在宅医療助成勇美記念財団の助成を受け「人工呼吸器をつけた子どもの預かりサービスの構築」の研究事業を行う。2008年、重症障がい児者レスパイトケア施設「うりずん」を開設。人工呼吸器など医療的ケアが必要な子どもの日中預かり事業を開始。重症障がい児と家族を支える拠点を構築するため、2012年に「うりずん」をNPO法人化し、現在も地域医療の推進役として尽力している。

ほっと一息つける時間を 在宅医療に尽力し、家族を支えるレスパイトケア施設を開設

高橋昭彦氏は、自治医科大学を卒業後、過疎地域の医療に従事。その後、2002年にひばりクリニックを開業。クリニックは、外来と在宅医療を行う医師1人体制の診療所であり、現在は同規模の2つの診療所とチームを組み、医療機能を強化した在宅療養診療所として活動。医師の専門化が進む中、小児、高

齢者、難病、認知症、末期がんなど幅広い診療を行っている。高橋氏は、在宅医療を通して「人工呼吸管理が必要な子どもを持つ家族は24時間常に子どもの様子を見守らなければならない」という現実を直視。在宅医療や福祉の制度が不十分で、主に母親に過重な負担がかかっている

状況に「重症障がい児を持つ母親たちの負担を軽減させてあげることはできないか」という思いから、2007年に在宅医療助成勇美記念財団の助成を受け、人工呼吸器をつけた子どもを預かる研究事業を開始した。この事業が契機となり、2008年3月に宇都宮市が重症障がい児者医療的ケア支援事業を創設。これを受け、同年6月、クリニックの建物内に重症障がい児者レスパイトケア施設「うりずん」を開設。宇都宮市の重症障がい児者医療的ケア支援の委託事業として人工呼吸器など医療的ケアが必要な子どもの日中預かり事業を開始した。レスパイトとは、「ほっと一息つける時間」という意味で、重症障がい児者を「時預かること」で介護を行う家族が休んだりリフレッシュしたりすることを目的としており、現在は4つの自治体と委託契約を結び、1歳から20歳までの計25名の重症障がい児者とその家族のケアまでも行っている。

さらに、ホームヘルプや訪問看護、相談支援など総合的かつニーズに応じた活動を行うために、2012年に「うりずん」をNPO法人化。地域で継続的に支援する体制を確



■患者さん目線で診察をする高橋氏

立した。現在、これらの活動は、医療的ケアを必要とする子どもとその家族にとってなくてはならないものとなっている。

高橋氏は、こうした幅広い地域医療活動に加え、在宅ケアネットワーク栃木、在宅緩和ケアとちぎ、栃木プライマリ・ケア研究会などの地域活動やさまざまなボランティア活動に参加し、地域支援の推進役として尽力している。

「本人を医療では『患者さん』と呼び、福祉では『利用者』と呼ぶ。しかし、地域で暮らす本人は患者さんでも利用者でもない、具体的なニーズを持つ『○○さん』である。○○さんがどう暮らしたいのか、そこを考えて取り組む人が病院と地域で増えることを願っている」と語る高橋氏。地域を支える家庭医として、目の前の患者さんと誠実に向き合う高橋氏の姿勢は、これからの地域医療の模範となるだろう。



■「うりずん」主催のクリスマス会にて利用者と共に